

【わたとくSDGs】群馬県立渡良瀬特別支援学校の取組について

国立特別支援教育総合研究所

主任研究員 佐藤利正

I. はじめに

Sustainable Development Goals（以下「SDGs」という）は、2015年9月25日に国連総会で採択された、持続可能な開発のための17の国際目標である。今後も人類が安定してこの世界で暮らし続けることができるよう、世界中のさまざまな立場の人々が話し合い、課題を整理し、解決方法を考えて立てた2030年までに達成すべき具体的な目標である¹⁾。また、Education for Sustainable Development（以下「ESD」という）は、持続可能な開発のための教育である。ESDとは、現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉えて、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう身近なところから取り組むことで、問題解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動である²⁾。

本報告では、学校全体でSDGsに対する理解を深め、またその促進のためのESDを行っている群馬県立渡良瀬特別支援学校（以下「渡良瀬特別支援学校」という）の取組について紹介する。

II. 渡良瀬特別支援学校について

渡良瀬特別支援学校は、2023年に創立46年目を迎えた県立の特別支援学校である。小学部、中学部、高等部があり、訪問教育も行っている。群馬県みどり市笠懸町に広がる鹿田山中腹に位置し、四季折々の美しい自然の中で、児童生徒たちは生き生きと学んでいる。開かれた学校作りを目指し、特に特定非営利活動法人（NPO法人）「鹿田山環境保全ネットワーク」と連携した地域住民との環境保全活動においては、この活動を通して地域の人々との様々な交流や連携をするとともに、『ユネスコスクール』の認定を目指している。

III. わたとくSDGsについて

渡良瀬特別支援学校では、自校のESDの目指す方向を視覚的に分かりやすいように整理した「わたとくSDGs」（資料1）を作成している。「質の高い教育をみんなに」を中央において、中央下の『ガバナンス』に關係する目標の中から17「パートナーシップで目標を達成し



資料1

よう」を、左右下の『環境』に関する目標から12「つくる責任、つかう責任」と15「陸の豊かさを守ろう」を、左右上の『社会』に関係する目標からは3「すべての人に健康と福祉を」と11「住み続けられる街づくりを」を、中央上の『経済』に関する目標からは8「働きがいも経済成長も」を、本校の教育活動と特に関連深い目標として選び、大きなアイコンにして配置している。この「わたとくSDGs」に職員や児童生徒に親しめるよう、学校内の各教室等に掲示してある。

IV. 実践紹介

1. 鹿田山の菜の花を教材とした学習

鹿田山には、春になるときれいな菜の花畑ができる。この菜の花を教材として、小学部や高等部で環境保全学習などを行なっている。具体的には、菜の花が咲くと昆虫が増え豊かな自然ができたり、きれいな景色を見に人が訪れることを知ったりすることで、自分たちの活動が自然を大切にすることや、地域の町づくりとつながっていることに気づき、そこに価値を見出せるような授業を行なっている。



また、菜の花が咲き終わると種ができ、種から油を搾ることができることを生徒が実際に体験することで（写真1）、自然の不思議さに心を動かし、自然の崇高さに気づけるような取組も行っている。

2. 鹿田山の環境保全活動

児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会生活に必要な事柄を総合的に学習する作業学習のなかで、「環境保全班」を編成し鹿田山の環境保全活動を行なっている。具体的には、フットパス（歩道）へのチップ敷き（写真2）、綿繰り（綿花から種子を取り除く作業）（写真3）、駐車場の花壇の手入れや清掃活動などがあり、これらの活動を鹿田山の四季の変化に合わせて、年間を通して行なっている。またこれらの活動は、特定非営利活動法人（NPO法人）「鹿田山環境保全ネットワーク」が行う鹿田山ネットワーク事業に参画しながら、地域の方々と連携をしながら進めている。



V. SDGsに対する児童生徒の意識づけや指導の工夫について

学習を進めるにあたり、SDGsに対する児童生徒の意識づけを行なっている。例えば、実際に鹿田山を訪れる人々がどのように感じるかを考えるなどの学習を通して、児童生徒が自分たちの活動にどのような意味があるのか理解できるようにしている。また「SDGsすごろく」を活用しながら、児童

生徒の活動が、SDGsのどの目標に当てはまるのかについて、理解しやすいよう工夫している。

VI. 教育的効果について

渡良瀬特別支援学校は、生活上や学習上の様々な困難を抱えている児童生徒が学んでいるが、SDGsに関する活動を通して、様々な教育的効果が得られている。例えば、コミュニケーションが苦手な児童生徒が、鹿田山を訪れる人から感謝の気持ちを伝えられるなどして自己肯定感が高まり、大きな声で挨拶ができるようになったり、また自信をもって学校生活を送れるようになったりするなどの変容が見られている。また、苦手だった虫が大丈夫になったり、花壇の整備や綿繰り作業で植物に関する知識を深めることができたりなど、児童生徒の自然に対する意識を高めることができている。

VII. SDGsに対する職員の意識向上のための取組について

1. 職員研修等を通じた取組

職員のSDGsに関する意識を向上させるため、様々な研修を行なっている。例えば、専門家を招いて「2030SDGsカードゲーム研修」を保護者も交えて行なったり（写真4）、大学教員からの助言を得ながらSDGsの視点と関連させた授業研究会を行なったりしている。



2. SDGsカレンダーを活用した取組

先述したとおり、渡良瀬特別支援学校は学校全体でSDGsに関する取組を行なっている。渡良瀬特別支援学校は、児童生徒の年齢、障害の程度や種類も多様であり、また職員の数も多いことから、職員

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
健康で 心豊かに 生きる力 (健康な 生活と福祉 の推進③)					【高：特活：陸上部】 筋力と持久力を 身に付けよう			【高：保健体育】 ・校内マラソン大会をしよう (鹿田山散策路)				
生活する 力 (働く喜び とつくる責任・使う 責任④)	 											
社会に参 加する力 (鹿田山の 保全活動を通した町づ くりと地域 人々との協 働⑤⑥)	  											
	【小学部】(生華)・季節を感じよう(春夏秋冬) 鹿田山の草花や昆虫、交通安全、季節の行事 (生華)・木の実で遊ぶ(作る)											
	【中学部】(生華)・校外学習へ行こう(鹿田山) ・校外学習へ行こう(鹿田山)											
	【高：作業学習】 (環境保全)・散策路のチップ敷きをしよう ・鹿田山駐車場の公衆トイレ清掃をしよう ・鹿田山駐車場の花壇整備をしよう ・鹿田山駐車場の除草作業をしよう ・鹿田山、校舎周辺のゴミ拾いをしよう ・綿花作業をしよう ・さつまいも畑の整備をしよう(苗植え準備マルチ張り：鹿田山環境保全ネットワーク共同作業、農耕班手伝い依頼、除草作業等) (農耕園芸)・鹿田山花壇にマリーゴールドやパンジー・ビオラ提供 (縫製)・鹿田山の綿花(オーガニックコットン)を使ったマスコット人形を製作											
	【高：綿花種まき】 ★鹿田山環境保全 ネットワーク共同作業 ・サービス班依頼				【小・中・高：菜種まき】 ★鹿田山環境保全 ネットワーク共同作業				【高：鹿田山フットパス整備】 ★鹿田山環境保全 ネットワーク共同作業 ・高等部全クラス参加 ・PTA 共同事業			
	【高：大間々高校との交流及び共同学習】 ★鹿田山環境保全ネットワーク共同作業 ・高等部全クラス参加(苗植えと収穫、年2回) ・生徒会役員と大間々高校とのリモート交流											

資料2

の共通理解のもと取組みを進めていくことが大変重要である。そのために、各学部でESDカレンダーを作成し、その中で関連するSDGsの目標を取り上げ、目標ごとの活動内容や活動時期を示すことで職員の共通理解を図っている。また、鹿田山関連のESDカレンダー（資料2）については、小学部から高等部までが一覧で示されており、他学部の活動内容が把握しやすいよう工夫されている。

■参考資料

1. (ウェブサイト) 公益財団法人ユニセフ協会 SDGsCLUB
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/about/> (2023年5月31日閲覧)
2. (ウェブサイト) 文部科学省 ユネスコの活動(教育)
<https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm> (2023年5月31日閲覧)

■用語の略称や読み方について

わたとく：渡良瀬特別支援学校（わたらせとくべつしえんがっこう）の略称

鹿田山：しかだやま

笠懸町：かさかけまち

綿繰り：わたくり